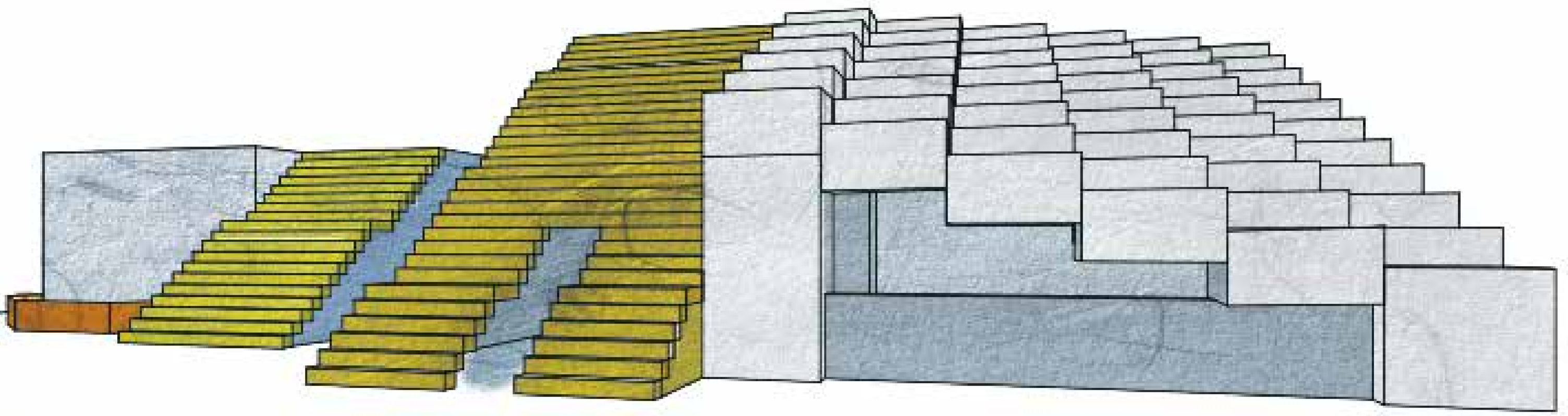


段差のあるカフェ ～能登半島をモチーフに～



段差には可能性がある

北東側（佐渡ヶ島からの）パース

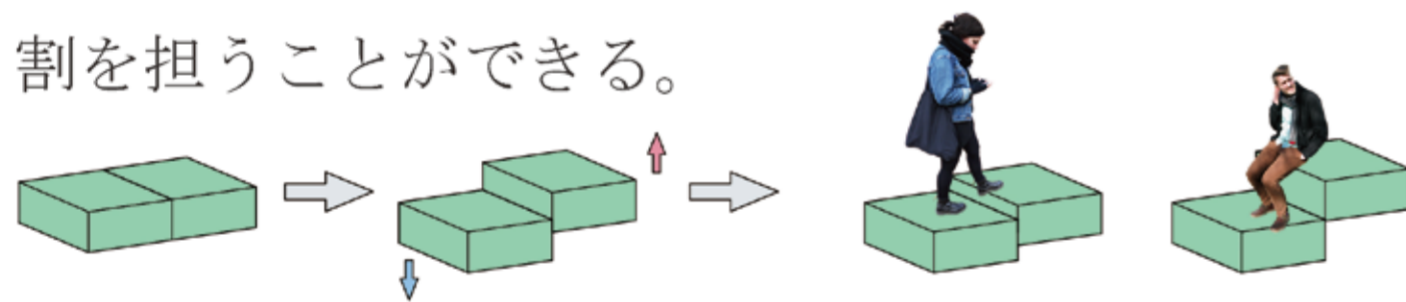
2024年最初の日、能登半島地震が起き、Ground Level に被害を与えた。私はその日、地下深くの断層がずれ、段差ができるときに生まれるエネルギーに対して、恐怖と同時に可能性を感じた。

私たちが段差を作る際もエネルギーが生まれるのではないか。

その考えから、バリアフリーなどで段差に否定的な時代のなかで、建築に段差を用いて機能面とデザイン面で魅力を引き立たせられるよう目指した。

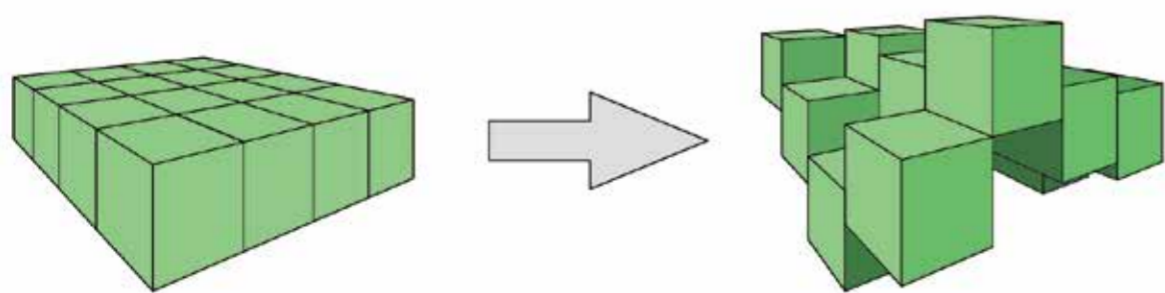
機能的可能性

1つの段差が生まれるだけで、階段や椅子などの役割を担うことができる。



芸術的可能性

立体がただ平面に並んでいる状態から1つ1つを上下にずらすだけでデザインが生まれる。さらに、ずらす大きさを変えると無限の作品が出来上がる。



多くの段差がある能登半島

白米千枚田（棚田）



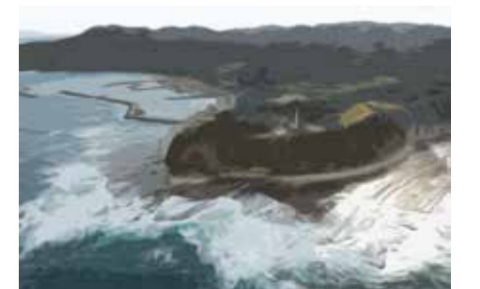
垂水の滝



ヤセの断崖



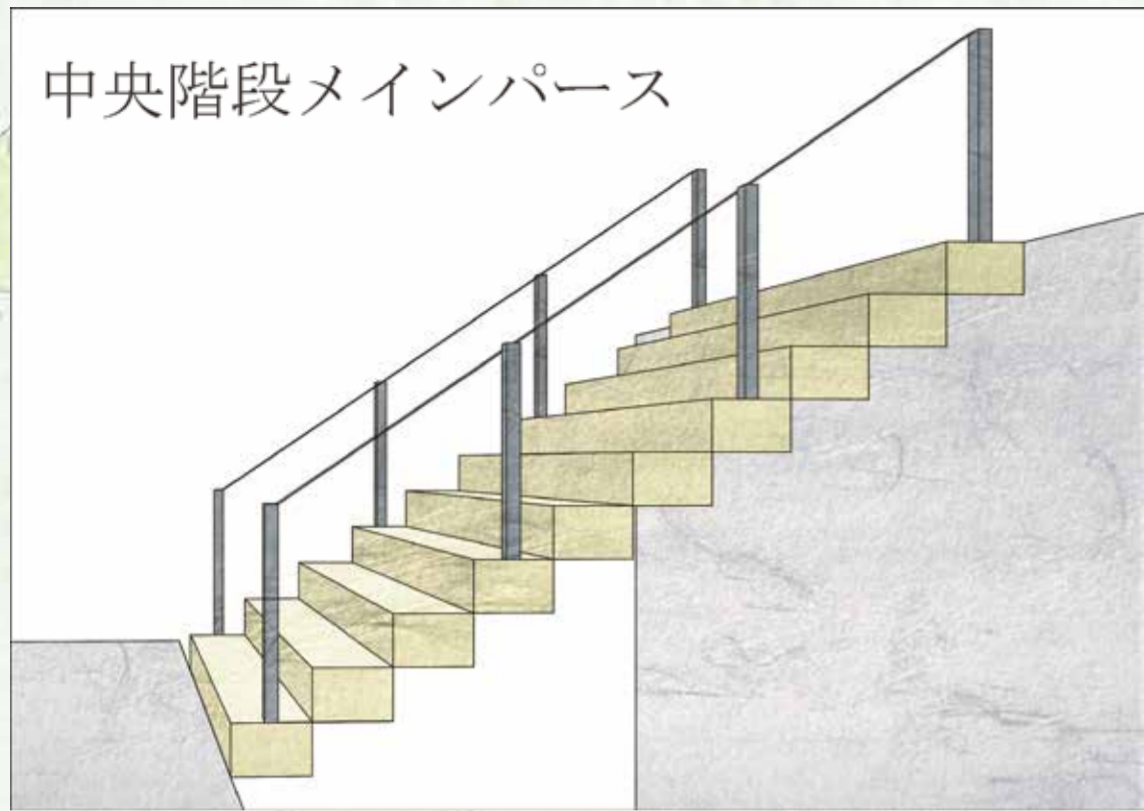
禄剛崎



災害という苦難の段差を乗り越え、少しでも早い復旧を願っています。

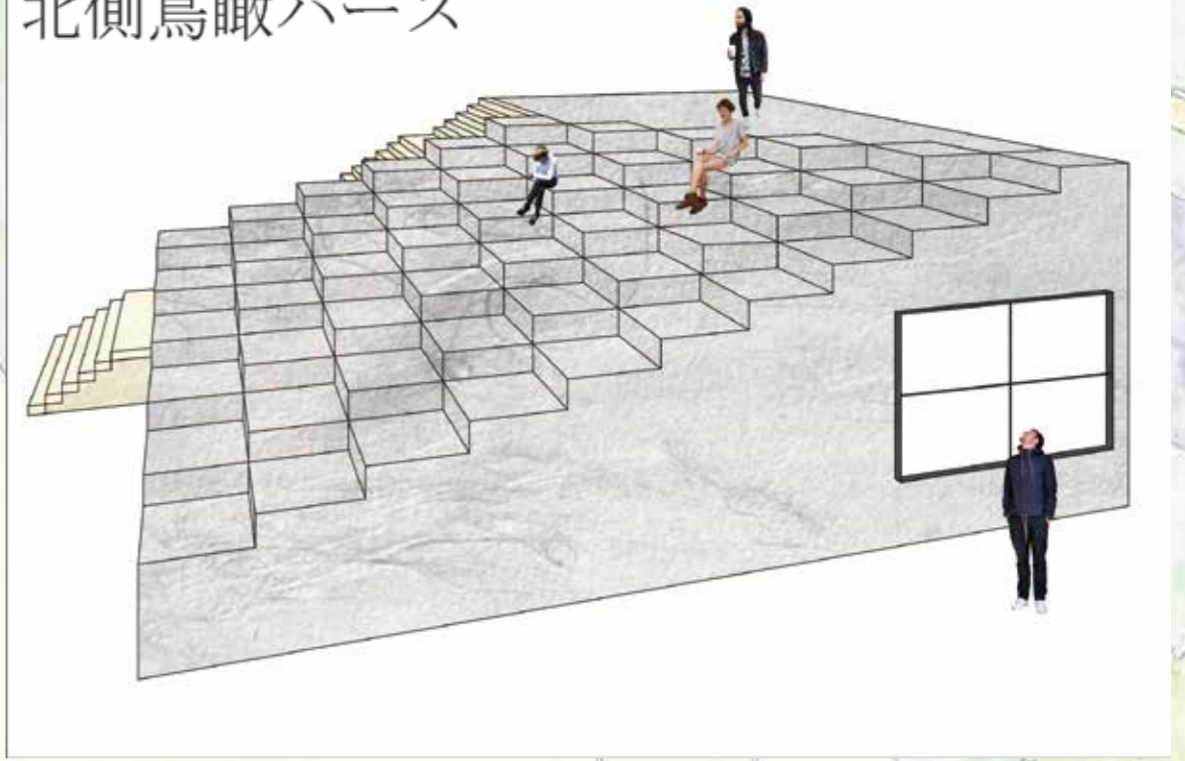


意味を込めた3つの段差

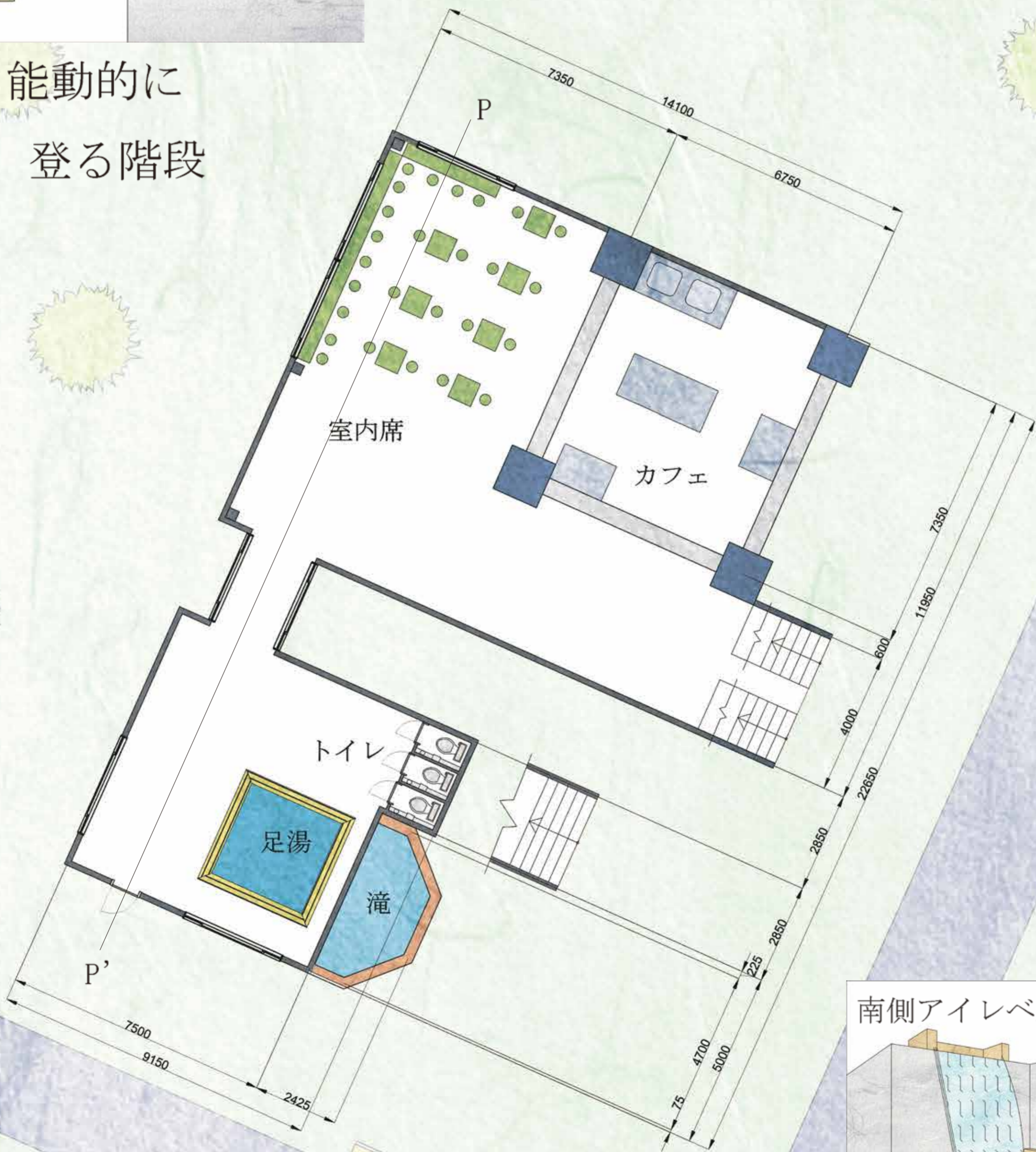


step, 2 能動的に
登る階段

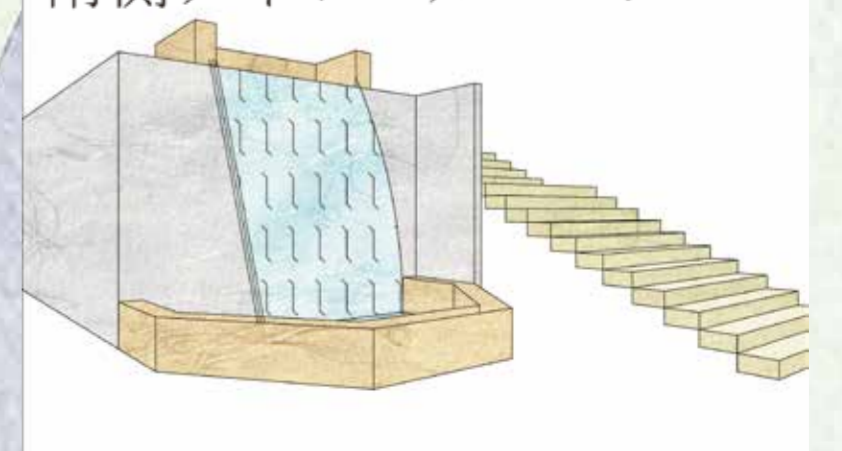
北側鳥瞰パース



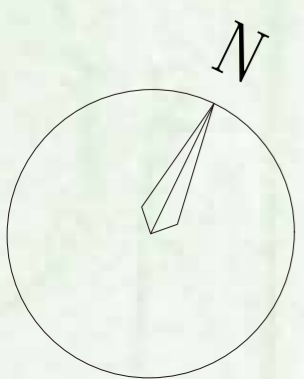
step, 1 海岸段丘をイメージした
段差の連続



南側アイレベルパース



step, 3 段差が生む
水の流れ



1/100 平面図：総合公園の一部を敷地と想定した